

# 血糖値(グルコース)について

糖代謝の状態を知るための検査として古くから血糖検査は用いられてきました。糖尿病の疑いがあるとき、まず第一に行う検査です。血糖とは、血液中に含まれているブドウ糖(グルコース)のことです。血糖を調節しているホルモンにはいくつかの種類があり、血糖を常に適正な数値に保っています。特に重要な働きをするのが膵臓から分泌されているインスリンです。インスリンは、食事によって血液中に増加したブドウ糖をグリコーゲンとして組織に貯え、血糖値を下げて一定に保つ働きをしています。

糖尿病などの管理・治療においては、迅速かつ簡便にできる血糖値測定が重要な検査になります。中央検査部での血糖値の測定方法は日本を代表する生化学自動分析装置(オートアナライザー)を使用し、酵素法(ヘキソキナーゼ法)を用いております。当



## 中央検査部技師長 上道 文昭

院中央検査部における基準値は64~117mg/dlです。しかし血糖値は食事の影響などで大きく変動します。そこで、食事の影響を受けにくい検査としてグリコヘモグロビン(HbA1c)、フルクトサミン、1,5アンヒドログルシトール(1,5AG)などの検査も用いられるようになりました。血糖の測定時の注意事項としては、採血する血液で値が異なり、動脈血や毛細血管血での値は静脈血より10~20mg/dl程度高値になることです。自宅において自己血糖管理によく用いられる簡易血糖測定器で測った場合は、病院で測るときより高値になることがあります。

糖尿病の危険因子には遺伝、肥満、暴飲暴食、運動不足、ストレス、妊娠、肝機能障害、内分泌疾患などがあります。なかでも肥満が最も強い危険因子とされています。これらの因子をお持ちの方は診療科の医師に相談しましょう。また基準値と治療目標値は違いますので、治療中の方は担当医師の指導に従ってください。

